

茨木市立中条小学校 全国学力・学習状況調査分析結果

令和4年 10月作成

【今年度の結果と取組みについて】

〇●国語●〇

（領域ごと）

- | | |
|-------------------|-------------|
| ① 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 大変良好な結果であった |
| ② 我が国の言語文化に関する事項 | 良好な結果であった |
| ③ A話すこと・聞くこと | 概ね良好な結果であった |
| ④ B書くこと | 良好な結果であった |
| ⑤ C読むこと | 大変良好な結果であった |

（問題形式）

- | | |
|-------|-------------|
| ① 選択式 | 大変良好な結果であった |
| ② 短答式 | 大変良好な結果であった |
| ③ 記述式 | 良好な結果であった |

（無解答率）

良好な結果であった

（その他）

『読むこと』と『短答式』の領域の正答率が特に高く、
『我が国の言語文化』と『話すこと・聞くこと』の領域の正答率が低い。

分析

どの領域・問題形式についても全国平均を大きく上回っているが、その中の問題形式の中では『記述式』については、苦手意識を持っている児童が多く、全国平均より上回るものの無解答率は高くなっている。

知識としては習得できてはいるが、文章を読み、そこから考えられることを、複数の条件を整えて書くという『記述式』の問題に課題があり、記述しているものの条件を満たして解答できておらず、決まった字数の中でまとめたりすることに課題がみられた。

問題には意欲的に取り組むことができおり、国語に対して肯定的にとらえている児童が多く、学習の必要性を感じている。一方で、問題全体の後半部分の無解答が増えている。児童自身も問題を解く時間がたりなかったと答えており、問題の時間配分には課題があったと考えられる。

〇●算数●〇

(領域ごと)

- | | |
|-----------|-------------|
| ① A数と計算 | 良好な結果であった |
| ② B図形 | 大変良好な結果であった |
| ③ C変化と関係 | 大変良好な結果であった |
| ④ Dデータの活用 | 大変良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|-------|-------------|
| ① 選択式 | 大変良好な結果であった |
| ② 短答式 | 大変良好な結果であった |
| ③ 記述式 | 大変良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

『選択式』の領域の問題の正答率が特に高く、
『数と計算』と『短答式』の領域の問題の正答率が低い。

分析

どの領域・問題形式についても全国平均を大きく上回っている。

領域でいうと、無解答率も低く、正答率も高かった『データの活用』領域が特に力を発揮している領域といえる。また、『図形』領域についても、大変良好な結果であるものの、無解答率が高い傾向にあった。算数の問題について記述式の問題でも、すべて書こうとしていると解答している児童も多く、意欲的に取り組んでいる一方で、その解答時間がややたりなかったと感じている児童もいたことから、問題を最後まで解く時間がとれずに、無解答となった児童もいると考えられる。『数と計算領域』は、基本的な計算など知識を問うような問題は、正答率が高いが、不注意が原因と思われる間違いや、なぜそのようなになるかの理由を問うような問題については課題があった。

問題形式としては、『選択式』が大変良好であり、力を発揮できている。『記述式』はそれに比べると、正答率は下がるが、無解答率も低く、意欲的に解こうとする姿が見られる。

(領域ごと)

- | | |
|---------|-------------|
| ① エネルギー | 良好な結果であった |
| ② 粒子 | 大変良好な結果であった |
| ③ 生命 | 良好な結果であった |
| ④ 地球 | 大変良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|-------|-------------|
| ① 選択式 | 良好な結果であった |
| ② 短答式 | 大変良好な結果であった |
| ③ 記述式 | 大変良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

『記述式』の領域の問題の正答率が特に高く、
『生命』と『選択式』の領域の正答率が低い。

分析

どの領域・問題形式についても全国平均を大きく上回っている。

特に、『粒子と地球』領域において力を発揮しているといえ、正答率が全国平均と比べても非常に高い。

問題形式においても、特に差異はなく、どの問題形式においてもよくできているといえる。しかし、『選択式』において、実体験が少ない児童が多く、経験していないことにとまどいが見られた。また、複数の条件を整理して考察する問題の中で、その複数の条件を見落としている解答が見られた。問題文を注視して読むことができているならば、正しい解答ができたと考えられる。

無解答率においても、大きな差異はないが、基礎的な知識を問う短答式の解答において、定着が図れていない様子も見られている。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

例年通り、全国平均を大きく上回る傾向で推移している。国語についても、算数についても例年として概ね変化せず、全国平均より高い位置を維持している。

無解答率についても、全国平均を大きく下回り、良好な傾向が続いている。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

学力高位層は、全国平均を大きく上回る傾向が続いている。

学力低位層は、全国平均を大きく下回る傾向が続いている。

エンパワー層についても全国平均を大きく下回る傾向が続いている。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

- ・どの授業でも、ペア→班→全体での交流の時間を持つようにして、一人ひとりの児童の意見が授業に反映されるように授業づくりを行っていく。
- ・めあてを焦点化し、見通しをもった授業でみんなが考えることを共有できる授業づくりを行う。
- ・自分の考えを発表していなかったとしても、ノートに書いているものを教師が確認することで、児童が自信をもって取り組めるようにしていく。
- ・振り返りの時間をとることで、授業の理解度の確認を行う。
- ・時間意識を持たせた課題への取り組みせ方を模索していく。
- ・全ての児童がわかるためにユニバーサルデザインを意識した授業づくりをしていく。
- ・合理的配慮を行いながら、どの子も自分で取り組める授業を組み立てていく。
- ・きまりは理解しているが、応用していく力や臨機応変に対応する力に課題がみられるので、普段の生活でも「なぜか」という理由を自ら考え、説明できるように指導していく。
- ・教室に入りにくい児童も学習に取り組んでけるように、別室の場所に登校しながらスモールステップで、自分の思いや自信をもてる環境づくりを行っていく。
- ・朝の時間に読み聞かせをとることで、子どもが本に興味を持てる素地を育んでいく。
- ・目的意識をもち、茨木っ子運動「はくちょう」などに取り組み、姿勢保持して学習に集中できる児童を育成していく。
- ・自ら整理できる力を育成することで、学習に参加しやすい環境を整える力をつける。
- ・キャリアパスポートを通して自分のことをふりかえり“がんばり”“できた”ことを確認し、自信につなげていく。
- ・コロナ禍で、活動の制限のある中、友だちと意見が異なったときにどのように解決していくかの経験が少ないことから、班遊び・みんな遊びなど、クラス作りで、他者とつながる力をつけるとりくみを意識していき、教師は、その“場を作る”“種をまく”役割をしていく。
- ・他者とつながり、生きていけるようにあいさつ運動やハッピー学級での取り組みを行っていく。
- ・学習に集中できる体調を整えるために、自らの生活習慣に興味をもち、よりよい習慣が身につくように指導していく。
- ・本好きの児童を増やし、読みを深めるために、今後も図書情報部の本紹介の活動や図書委員会の活動を継続し、本を身近に感じて興味を持つきっかけを作っていく。
- ・情報モラルを高めるため、出前授業を行い、情報との付き合い方を指導していく。

子どもの質問紙の分析から

- 読書好きは多いが、好きでない子も多く、二極化の傾向がみられる。
- 携帯電話の使い方についても守る子と守らない子の二極化の傾向がみられる。
- 休日に勉強しており、読書好きと選ぶ児童が他校と比べて非常に多い。

また、放課後、友達や家族と過ごす児童が少なく、塾に行くことが多い。

これらのことと、友達と協力するのは楽しい、自分と違う意見について考えるのは楽しいというのが他校より低い。

- 国語や算数に比べて、理科への苦手意識が強い傾向がみられる。
- 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしているか。／難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦しているか。がやや低い。
- 学級の話し合いで…互いの意見の良さを生かして解決法を決めていると感じている一方で、今、自分が努力すべきことを取り組んでいる。／道徳で自分の考えを深めたり学級・グループでの話し合いに取り組むが低い。